

知財AIオーケストレーション：AIを「奏でる」から「指揮する」時代へ

知財人材のパラダイムシフト

「奏者」から
「指揮者」への進化



「奏者」から「指揮者」への進化

プロンプトによる細かな手順指示ではなく、ゴール・成功条件・制約を定義する「設計力」が中核スキルとなります。

AIを「チームメンバー」として扱う



AIを「チームメンバー」として扱う

AIを単なる道具ではなく、探索・分析・草案などの役割を持つ混成チームの構成員として管理します。



人間とAIの協働ワークフロー

課題定義から承認までの連鎖設計



課題定義→探索→分析→草案→評価のサイクルを設計し、各工程に最適なAIと人間を配分します。

高リスク判断は人間が最終責任を負う

特許性や侵害判断などの法的責任が伴う業務は、AIを仮説生成の加速器とし、人間が必ず最終承認を行います。



実装ロードマップ（知財組織が段階的に取り組むべき実装）

